

2013 年度日本海洋学会秋季委員会 議事録

日時 2013 年 9 月 18 日 (金) 18 : 00 ~ 20 : 00

場所 北海道大学地球環境科学院 D 棟 101

出席者 秋友、安藤、磯田、磯辺、市川 (香)、市川 (洋)、伊藤、今脇、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、加藤、蒲生、川合 (義)、河宮、神田、岸、倉賀野、齊藤、千手、武岡、武田、津田、羽角、日比谷、深澤、升本、松野、三寺、見延、安田、山中、吉田各評議員、久保川大会長、鈴木環境問題委員長代理、小畑、川合 (美)、河野、杉崎、原田各幹事、毎日学術フォーラム (出戸、平坂)

委任状 淡路、池田、岩坂、上、蒲池、轡田、久保田、小池、須賀、根田、田上、中田、花輪、藤原、道田、柳、山形、Xie (18 名)

開会に先立ち、神田幹事から出席 36 名、委任状 18 名の計 54 名の有効出席員数があり、評議員会細則第 3 条の規定により評議員会の成立要件を満たしている旨の報告があった。

1. 会長挨拶 (植松会長)

基本方針である「6 つの矢」の状況報告があった。大型研究の推進：将来構想報告が海の研究に掲載される。若手会員の育成：若手集会助成、シンポジウム・アンケートなどを実施し、NL での若手コラムを開始した。他学会との交流：水産学会などとの交流を進めている。国際化への推進：WESTPAC シンポジウムや AOGS でのセッションを支援する。会員の特典拡大：企業との交流、賞の推薦を行っている。財政の健全化：印刷代の見直しなどを行った結果、来年度の赤字が 400 万円から 120 万円程度に改善される見通しである。

2. 大会委員長挨拶 (久保川大会委員長)

大会参加者数、発表数等について報告された。本大会では特別セッションやプレスリリースなどの新しい試みを行った。大会参加者数は約 500 名であった。

3. 報告事項

1) 会務報告

a) 庶務 (岡・小畑幹事)

2013 年 2 月から 7 月までの会員異動状況について報告があった。87 名の入会、123 名の退会があった。7 月現在の会員数 1780 名。また、シンポジウムの開催・共催についての報告があった。

b) 編集

i. Journal of Oceanography (日比谷編集委員長)

発行状況についての報告があった。二重投稿が発覚し、該当論文の却下に加えて著者 3 名について今後一切の論文投稿を受け付けないという処分を課した。自己剽窃の疑義がある論文があり、編集委員会での審議により、注意勧告を添えて論文を却下することとした。今後も調査を続ける予定である。安易な投稿を避けるため、投稿あるいは印刷に際して課金することを検討中である。また、編集委員 2 名の退任があり、後任を選定中である。

ii. 海の研究 (岡編集委員長代理)

発刊状況についての報告があった。印刷物の図が白黒であるべきであること、経費削減のため印刷会社を変更することについての説明があった。

iii. JOS ニュースレター (津田編集委員長)

発行状況についての報告があった。現在 3 巻 3 号の編集中であり、11 月に発送予定。編集経費を返納するとともに、印刷会社の変更により経費を削減したことが報告された。

c) 研究発表 (鈴木幹事)

次回の大会開催計画について報告があった。

d) 賞選考

i. 学会賞・岡田賞・宇田賞 (津田委員長)

現在の進捗状況について報告があった。

ii. 日高論文賞・奨励論文賞 (大島委員長)

現在の進捗状況について報告があった。

iii. 環境科学賞 (鈴木委員長代理)

現在の進捗状況について報告があった。

e) 選挙管理 (山中幹事)

本年度の選挙の予定について報告があった。

f) 海洋環境問題研究会 (鈴木研究会会長代理)

活動内容についての報告がなされた。

h) 沿岸海洋研究会 (武岡研究会会長)

今大会で開催されたシンポジウムの概要およびその他の活動についての報告がなされた。次年度は役員交代の予定。

i) 教育問題研究会 (岸研究会会長)

資料に基づき、教育問題研究会の活動報告および計画が紹介された。学会として社会に対する質問受け付け窓口などを検討してはどうかとの意見が出され、幹事会で検討することとした。

2) 学界関連報告

a) 学界動向（津田副会長代理）

各種関連会議・団体の動向などについての報告があった。詳細は年 2 回程度 JOS ニュースレターにて紹介する予定である。

b) 日本地球惑星科学連合（原田幹事）

代議員選挙が行われること、次回大会は 2014 年 4 月 28 日から 5 月 2 日に横浜で開催される予定であることが紹介された。

3) その他

a) 震災対応（神田幹事）

震災対応 WG が作成した報告書が学会ウェブサイトに掲載されている。震災関連のシンポジウムの開催や海外との連携調査などについての報告があった。

4. 審議事項

1) 名誉会員の推薦について（岡幹事）

谷口旭会員と高橋正征会員を名誉会員に推薦することが承認された。

2) 2014 年度秋季大会の開催について（鈴木幹事）

長崎地区会員により長崎大学にて開催することが承認された。

3) 2015 年度春季大会の開催について（鈴木幹事）

気象庁主催により東京海洋大学にて開催することが承認された。

4) その他

a) 奨励論文賞について（大島委員長）

現在の規定では「2 年間に JO または海の研究に掲載された学生会員または 27 歳以下の会員を筆頭著者とする論文」を対象としているが、該当論文が少ないことから、規定の変更が提案された。年齢制限を廃止し、「学生会員、または学生会員から一般会員に切り替えてから 2 年以内の会員」に変更してはどうかという意見が出された。今後の幹事会で議論することとした。

5. その他

1) 蒲生評議員

2015 年にインドゴアの SCOR 総会で開催される国際インド洋共同観測 50 周年記念シンポジウムのため、当時の英文資料を探している。心当たりのある方は連絡を。

2) 伊藤評議員

本大会のポスドク問題・人材育成シンポジウムに関連して実施した「海洋関係学生数・ポスドク数、就職先調査」アンケートへの回答の締切を年末まで延期したので、協力をお願いしたい。

3) 津田幹事

本大会は新たな試みが多かった。特別セッションでの発表数、通常セッションでの発表数、依頼講演での発表数など、今後の参考となる詳細な資料の提出をお願いしたい。

4) 大島大会事務局長

特別セッションやプレナリーセッションなどの新しい試みについて、大会事務局のメール(kaiyo2013@lowtem.hokudai.ac.jp)に意見を送っていただきたい。

5) 深澤次回大会委員長

深澤次期大会委員長から、2014年度春季大会に向けての挨拶があった。新たな試みとして、託児所利用補助金制度、要旨集の参加者全員購入、学会会長との連名の若手ポスター賞の授与を行う予定。